

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 20 年度 第 2 号 2008 年 9 月 30 日

北海道立栽培水産試験場 調査研究部 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

平成 20 年度道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁況の見通し

道南太平洋海域のスケトウダラ漁況の見通しについてお知らせします。

(内容は、各協議会総会、会議等で報告したものです)

スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもごらんになります。ご利用ください。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

資源は横ばいで、来遊資源量(重量)は前年並と予想されます。漁獲量にすると昨年と同じ7万トン前後(全漁業込み)の資源です。

漁獲物は前年同様尾叉長40~45cmの小中型魚の割合が高いでしょう。

計量魚探調査の結果から見て、漁期前半の10、11月の漁獲量は少なく、2万トン未満となるでしょう。

平成12年生まれ(2000年級)より後には卓越年級がでていないので、現在ある資源をとりすぎないようにして、持続的に利用していくことが重要です。

1. 平成20年度に4歳魚として新たに加わる平成16年生まれの魚(2004年級群)の豊度は、前年度(平成19年度)の4歳(平成15年生まれ:2003年級群)より低い、平均的かまたはやや少ない水準の年級と予測されることから、資源量は前年並み(またはやや減少)と予想されます(図1)。漁獲量としては前年と同程度の7万トン前後(全漁業混み)の資源と考えられます。
2. 年齢組成は前年度とほぼ同様に4~6歳魚が中心と予想されるので、漁獲物の大きさも前年度同様小~中型魚(尾叉長40~45cm)の割合が高いでしょう。
3. 9月上旬に実施した計量魚探調査の結果から見て、漁期前半の10、11月の漁獲量は少なく、2万トン未満となるでしょう(スケトウダラニュース第1号を参照してください)。漁獲対象となるスケトウダラ成魚の分布範囲は水深150~400mで、200~300mの密度が高い結果でした。
4. 平成20年度以降の情報:次年度加入予定の平成17年生まれ(2005年級)は比較的豊度が高いと推測されています。一方、平成18年生まれ(2006年級)は豊度が低いと考えられているので、今後1年ごとに動向が「増加」、「減少」と変化する可能性があります。釧路水試が実施している道東海域1歳魚を対象とした計量魚探調査の結果では、平成12年生まれ(2000年級群)以降非常に豊度の高い年級群(卓越年級群)が出現していません。現在ある資源をとりすぎないようにして、持続的に利用していくことが重要です。
5. 今年度は、11月下旬に計量魚探調査を予定しています。12月上旬にスケトウダラニュースで分布状況や来遊量お知らせしていく予定です。

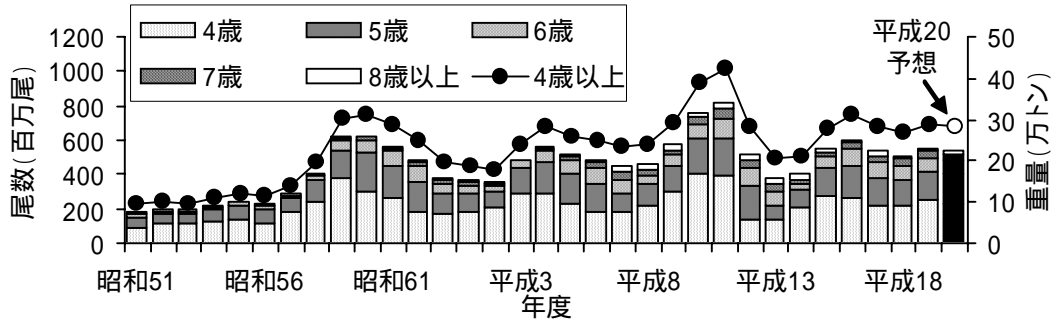
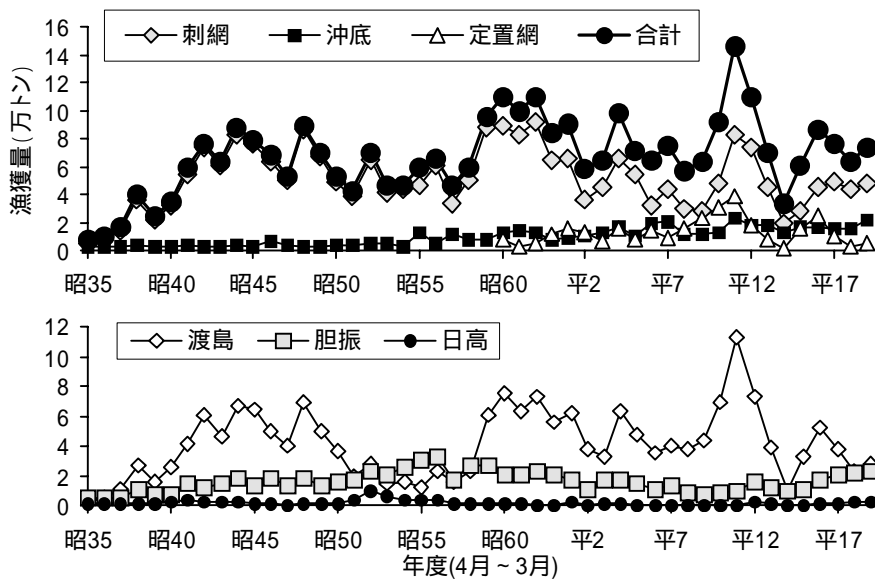
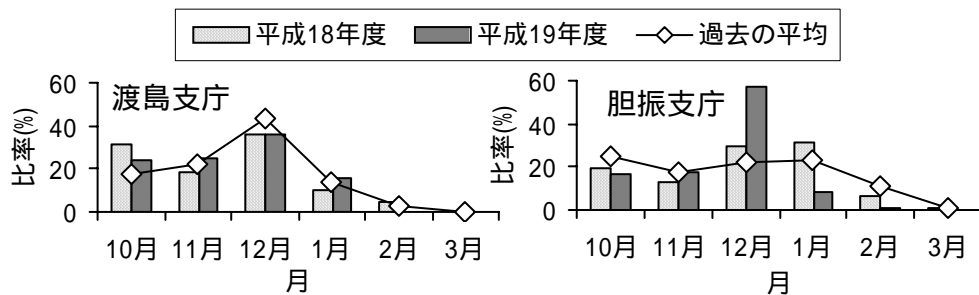


図1. 道南太平洋海域のスケトウダラ資源尾数（棒グラフ）および重量（折れ線グラフ）の経年変化



参考 道南太平洋海域の漁業別（上）支庁別（下、刺し網と定置網）スケトウダラ漁獲量の推移



参考 渡島および胆振支庁の刺し網漁獲量の月別比率

棒グラフ：平成 18、19 年度、折れ線グラフ（昭和 60 年～平成 11 年度の平均）